

東京外語会有志による海外支部歴訪の旅  
第16回シドニー外語会訪問  
～ 初秋のシドニー・ケアンズを訪ねる ～  
(2015. 5. 20～25)

林義之 (F1966)・坂本奈美枝 (S1966)

今回の歴訪の旅は、1995年の第1回ツアー（台湾支部訪問）から数えて20年目に当たる節目の旅だった。今までほぼ、1.5～2年に1度のペースで行われてきたが、今回はやや間を置いてのこのほどの実施となったもの。

今回は、舞台を南半球に移し、オーストラリアのシドニーとケアンズ、それに、オプションでエアーズロック（ウルル）を訪れた。

オーストラリアは、面積が日本の約20倍、人口が2300万人と日本の約1/5。東端から西端まで約4000キロ（北海道から九州までの2倍）の広大な国だ。

シドニーでは、シドニー外語会と交歓会を行った。

#### 夜行便でシドニーへ

**5月20日(水)** 成田空港待合室に総勢17名が集まり、団長・石原隆良さん(D1956)以下全員が自己紹介を行った。

シドニーへは、カンタス航空(QF)022便の直行便にて20:30発の夜間飛行となった。

#### シドニーは秋だった→オペラハウスなど市内観光

**5月21日(木)** 朝7:05の定刻にシドニーのキングスフォード・スミス国際空港に到着(時差+1)。

現地ガイドの出迎えを受け、荷物を専用バスに積み込んで、早速、その足でシドニー市内観光へ。気がつけば、シドニーは秋だった。好天気のもと、シドニー名物のオペラハウスとハーバーブリッジを見晴らす対岸の公園(ミスマッコイズ岬)を散策。澄み切った秋の、枯葉もそこそこ舞い散るなかをジョギングするシドニー市民の姿が印象的でした。



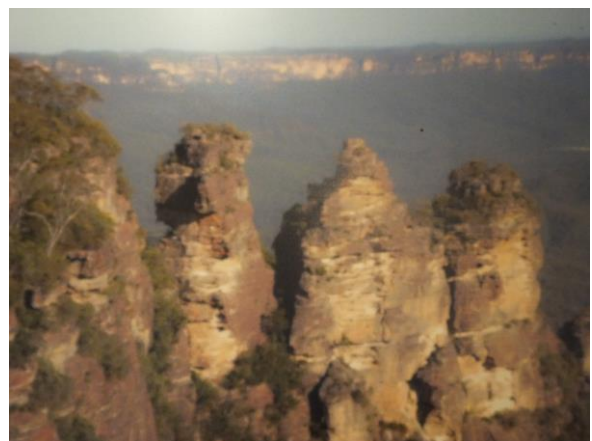
オペラハウスは、ホールまでは見られなかったが、14年の歳月をかけ、1973年に完成したシアターで、貝殻をモチーフにした、セイル型デザインの屋根は建築史上、最も困難な組立て作業を強いられたという。

そのあと、市内のカジノに隣接したレストランでオージービーフの昼食を賞味後、ホテルにチェックイン。

#### ブルーマウンテン ～風雨のなかに三姉妹を見た！～

**5月22日(金)** 朝8時半に専用バスでホテルを出発。一路、世界遺産ブルーマウンテンへ。シドニーから車で1時間半の日帰り可能な高原の避暑地で、カトゥーンバー帯に茂るユーカリの木々の成分の関係で、山が青くかすんで見えることからこの名が付いた。

この日は、生憎の雨で、見学場所のエコーポイントに着いた時には風も強まり、風雨のなかでの見学となった。ジャミソン溪谷と、美しい3姉妹が岩に変えられたというアボリジニの伝説を持つ、奇岩「スリー・シスターズ」は、霧に隠れて見えない！と思いきや、一陣の風とともに、その姿を現したではありませんか。見えた～。



この後、ブルーマウンテンの絶景を楽しめる3つの乗り物、トロッコ列車、スカイウェイ、ケーブルウェイの発着地であるシーニックワールド頂上駅から、いよいよ太古の大自然を体験する旅の始まりだ。

まず、シーニックワールド頂上駅からトロッコ列車で、最勾配52度の崖地をジェットコースターばりに駆け下り、シーニック谷底駅で下車。次に、ケーブルウェイ谷底駅まで、炭坑跡など見ながら歩く。更に、ケーブルウェイ谷底駅から頂上駅を経由して、スカイウェイ東岸駅までケーブルウェイに乗る。この間、炭坑跡のほか、川を渡り、最終駅につくまでスリルの連続だった。途中、まさに大きなシダの大木が茂り、太古そのままの姿がそこにあつたことに感動した。

魚料理の昼食を、現地の洒落た庭園のあるカーリントンホテルでいただき、午後4時にシドニーのホテルに帰館した。

## シドニー外語会との交歓会

「シドニー外語会との交歓会」は、「ラディソンホテル」で、午後7時から開催され、当方17名、シドニー外語会11名、計28名が参加した。

シドニー外語会の特色は、東京外語・大阪外語・神戸市外語の3外大の卒業生が一体となった組織であることであり、1982年発足以来30年余りの活動を行ってきたという。

現地からは、シドニー外語会会長の中尾尚子さん(タイ語、1980、トヨタモーター勤務)のほか、幹事の河原一夫さん(大阪デンマーク語、1992、オキデータ・オーストラリア勤務)、青木清久さん(イタリア語、1957、元住友商事勤務)らが参加した。

今回、初めてシドニー以外からの参加があり、キャンベラからのLangtry, Johnさん(日本語、1979、オーストラリア外務貿易省勤務)、メルボルンからの藤岡直樹さん(英米語、1987、トヨタモーター勤務)には敬意を表したい。また、Langtryさんと同じく、東京外語に留学していたGiles-Jones, Patrickさんにも参加していただき、流暢な日本語で、日本での思い出や日本との絆について熱っぽく語っていたのが印象的だった。

河原さんの司会・進行で進められ、シドニー外語会会長の中尾尚子さんの歓迎のご挨拶で宴は始まった。

冒頭、東京外語会理事長・長谷川康司氏及び東京外国語大学学長・立石博高氏からのメッセージの披露があった(添付資料参照)。



東京外語会-シドニー外語会交歓会

シドニー外語会会長の中尾尚子さんからは、「この交歓会には、遠くは、メルボルン、キャンベラからも出席して下さった方もおり、予てから懸案であった、全豪外語会が実現いたしました。そう言った意味でもお礼申し上げます。オーストラリア側一同、大変

良い刺激を受け、元留学生を含め、次回の外語会にも是非出席したいと、意欲が増した様です。」とのご挨拶があり、我々、訪問団も、来た甲斐があったとの思いを強くした。

また、シドニー側の四家さん(D、1992、三井住友銀行勤務)や藤岡さん(前出)から、「オーストラリアは、物価は高いが住み易い。南半球なので、太陽は東から出て北に回って南に沈む、南風が吹くと寒く、北風になると暖かい」といった日本人には面食らうお話しも伺えた。

最後に、オーストラリアの伝統文化の紹介があり、アボリジニの長い笛の演奏が行われて、9時閉会の予定が10時前にやっとお開きとなった。

シドニー外語会側の、今回交歓会に対するご尽力とお心遣いに心から感謝申し上げます。



オーストラリア伝統文化の披露(シドニー外語会、中央は中尾尚子会長)

この日、シドニーでは、「ビビッド・オーストラリア」と称するキャンペーンが行われていた。レーザー光線によるアトラクティブな映像によって、オペラハウスやビル壁が、まさに、ビビッドに彩られていたという。実は、この時間、我々は、シドニー外語会との「交歓会」を行っていて見ることはできなかった。後日、テレビでこの状況を知り、見られなくて、ちょっと残念と思ったことだった。



## ケアンズ へ <オプション=エアーズロック>

### キュランダの熱帯雨林に分け入る

**5月23日(土)** 天気は晴れ。朝、専用車にて、シドニー空港へ。一行17名のうち、4名はオプションでエアーズロックへ。

### <キュランダ観光>

ケアンズ組は、QF924にて、予定より早く11時50分にケアンズ空港に到着。出迎えていた中型バスに乗り込み、早速、キュランダ半日観光に向かった。

ケアンズは、世界最古の熱帯雨林のあるキュランダと世界最大・世界遺産のサンゴ礁、グレートバリアリーフなどを体感できるツアーの拠点となる街だ。

現地ガイド氏(豪滞在30年とか)によると、当地は、今、乾季だが時々シャワーのような雨が降るといふ。また、この地域は、元々、マングローブの林で覆われ、川にはワニやカニ(マッドクラブ)・エビがいて、ワニは釣り人を襲うことがあるという。畑(砂糖キビ畑)には、毒蛙もいて、害虫退治に持ち込んだが、実は虫はとらない役立たずだったとか。この日は、気温28度と日本よりちょっと暑く感じられたが、涼風が心地よかった。

我々は、カラボニ駅からスカイレール(ロープウェイ)に乗り、45分ほど熱帯雨林の上を進んで、7.5kmさきのキュランダ駅に着いた。この地域は、緑色の大型の「オーストラリア蝶」の保護区で、探してみたが見つからなかった。スカイレールからの眼下の熱帯雨林は瑞々しさが溢れていた。ゴンドラの窓からセミの鳴き声が聞こえてきた。夏ゼミだという。



スカイレール

キュランダ村は、アボリジニ(オーストラリアの原住民)が多く住む村で、売店などを営み、手作りのお土産などを売っている。その素朴な食堂でお昼を摂り、午後3時にキュランダ村をあとにして、ほどなくクリプトンビーチに着いた。ココナッツヤシの海岸で、海は荒れていたが、浜辺で結婚式の披露宴が行われていた。

16:30に植物園に到着。大きなシダや太い幹の大木に度肝を抜かれる。大きなソーセージや枝豆の格好をした果実をつけた木など面白い木々がたくさんあった。

17:30には今日のホテル「パンフィックホテル」に入り、ホテル近くのカジノに隣接したレストラン「食通天」で中華の夕食をいただいた。待望の大きな「マッドクラブ」(カニ)が出た。ホテルから至近の距離に「ナイトマーケット」やスーパーマーケットがあり、買い物を楽しんだ。



「食通天」での中華の夕食